

傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」

熊本でも開店 年内に

寄り添いは宗教者の役割

臨床宗教師会九州支部

超宗派の宗教者らが東 住宅などを巡り、被災者
日本大震災被災地の仮設 の心に寄り添う傾聴移動



社関係者らと連携を深めてきた。

事務局長の糸山公照・

真宗大谷派光照寺副住職が6月、カフェ・デ・モンクを主宰する金田諦應

・曹洞宗通大寺（宮城県栗原市）住職を訪ねた際、金田住職は「布教や

教えの押し付けをしなく

い」「話し上手ではなく

聞き上手に」などのアド

バイスとともに、「常に

苦しみに寄り添うのは宗

教者にしかできない役割

割。泥の中に花を咲かせ

よ」と励まし、看板を作

り現地に贈った。

支部に所属するのは僧

侶が多く、寺院での開催

では超宗派であることや

公共性に対するアピール

が不足するとし、日本福

音ルーテル大江教会（熊

本市中央区）を会場とす

る。まずは身内でプレオ

ープンし、スタッフの訓

練を積んだ後、年内には

一般向けに開店する。

糸山事務局長は「東北

魂を感じる看板も頂い

た。どんな人も気軽に相

談に来られる場を提供し

たい」。東北大の鈴木岩

弓教授も「超高齢多死社

会を迎え、苦しみ・悲嘆

への寄り添いは、被災地

だけでなく日本全国の問題。修了生が始めようと

していることを心強く思

っている」とエールを送

る。

九州支部の臨床宗教師は、カフェ・デ・モンクを主宰する金田住職から贈られた看板を手にし、意欲を高めた

（佐藤慎太郎）